

JDS Network News

発行元：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）

表紙：カンボジア_ベンメリア遺跡



Topics

JDS帰国留学生が、駐日ベトナム特命全権大使に就任！

- ▶ JDSウズベキスタン帰国留学生が勲章を授与されました
- ▶ 2022年度中間研修・行政官交流会（懇親会）を実施しました
- ▶ 世界の朝ごはん：東ティモール



H.E. Pham Quang Hieu

名古屋大学法学研究科/ 2005年修了

出典: VIETJO (<https://www.viet-jo.com/news/politics/230419080214-pic1.html>)

2023年4月、JDS帰国留学生のPham Quang Hieu氏(ファム クワン ヒエウ/ 名古屋大学法学研究科/ 2005年修了)が、駐日ベトナム特命全権大使兼駐マーシャル諸島共和国ベトナム特命全権大使に就任しました。

同氏はJDS留学から帰国後、大臣補佐兼人事局長、ベトナム外務副大臣を歴任後、今回の就任に至りました。

今年は日・ベトナム外交関係樹立50周年を迎える年でもあり、日本とベトナムの二国間関係の強化への貢献が更に期待されます。

JDSウズベキスタン帰国留学生が、 憲法制定30周年記念イベントにおいて勲章を授与されました

2011年、2012年に帰国したウズベキスタン出身のJDS留学生2名が、昨年12月に開催されたウズベキスタン憲法制定30周年記念イベントにおいて、公共分野においての功労者としてその活躍を称えられ、政府より勲章を授与されました。

この勲章は、ウズベキスタン政府が公共や民間で活躍する功労者に対し発行しているもので、今回の授与決定は閣僚会議により行われました。現在Haydarov氏〈写真左〉は国営企業ナボイ・ウラン、Taparov氏〈写真右〉は国営企業ナボイ・鉱山金属コンビナートの副総裁を務めています。

Haydarov氏は、ナボイ・ウランでは副総裁としてJICA専門家の招聘にも尽力するなど、日本企業との連携により一層力を入れています。両氏の今後益々の活躍が期待されます。



〈写真左〉 Mr. Haydarov Hasan Tolibovich
(ハイドロフ ハッサントリーボヴィッチ)
立命館大学 経済学研究科 2011年9月修了
現職: 国営企業ナボイ・ウラン 副総裁

〈写真右〉: Mr. Taparov Qurbanmurat Kholmuratovich
(タパロフ クルバンムラット ホルムラトヴィッチ)
立命館大学 経済学研究科 2012年9月修了
現職: 国営企業ナボイ・鉱山金属コンビナート 副総裁

2022年度中間研修・行政官交流会(懇親会)を実施しました

2023年2月27日(月)から3月3日(金)の4日間(※1)、JDS事業の一環で、2021年に来日した19カ国、356名(※2)のJDS留学生在一堂に会する中間研修を実施しました。コロナ禍の中で来日した留学生にとって初めての対面での大型研修となり、東京での同胞との再会と、本研修を通してJDS事業の目的に立ち返り、帰国後に自身が何をすべきかを再確認するなど、留学生としての士気を高め、且つ留学生同士のネットワーク形成を行うよい機会となりました。



中間研修のグループワークの様子

本研修は、修士課程修了まで残り約半年となった時期に、自身の目標について振り返り、JDS留学生としてのアイデンティティを醸成するとともに、帰国後にそれぞれの国の発展と二国間関係に資するリーダーになっていくための意識付けを行うことを目的としています。元内閣官房参与・慶應義塾大学大学院の谷口智彦教授による特別講義及びグロービス経営大学院の吉野賢哉教授によるリーダーシップ研修に参加し、グループワーク等を通して、国の代表としてJDS留学生同士が積極的に意見を交わしました。

また、3月2日(木)の研修後には、今年度第2回目となる行政官交流会を実施しました。第1回目の各省庁による講義・質疑応答形式の交流会に続き、今回は懇親会として、我が国の行政官を含め総勢370名が虎ノ門ヒルズフォーラムに集い意見交換を行いました。

行政官交流会では、ガバナンス、国際関係、インフラ、教育・社会福祉、農業・エネルギーなどの分野別の交流エリアに行政官が集い、国を超えて専門分野について熱心に意見交換する姿が見られました。



行政官交流会に集ったJDS留学生

※1: うち1日は移動日

※2: 他社所管の3カ国(ガーナ、ネパール、エルサルバドル)留学生を含む

関連記事: [人材育成奨学計画\(JDS\) 行政官交流会 | セミナー・シンポジウム報告 | ニュース - JICA](#)



今回は、最近JDS東ティモール事務所に現地スタッフとして仲間入りしたNobiさんお勧めの朝ごはんをご紹介します！



Nobiさん

2019年3月に、JENESYS（外務省が実施する対日理解促進交流プログラム）で来日して以来、大の親日家となり、現在も日本で親交を持ったホストファミリーや友人と連絡を取り合っているそうです。また、滞日中に得た経験が仕事への責任感を育んでくれたと、今回JDS事務所のポストへ応募されました。Nobiさんは、JDSを通して日本と東ティモールの二国間関係強化のために、日々業務に励んでいます。



アカール・イシン(ヤシの実の繊維のパンケーキ)

東ティモールの伝統的な朝ごはんの一つに「アカール・イシン」があります。ヤシの実の繊維をすり潰して砂糖と混ぜて焼き、クレープの様にクルクル巻いたもので、香ばしくほんのり甘く、これが東ティモールのコーヒーと最高に合うそうですよ。



アイファリナ・バファ(ゆでたキャッサバ)

東ティモールの主食は米と芋ですが、その中でもキャッサバが大人気！キャッサバは日本でも大ブームとなったタピオカの原料としても知られた植物で、熱帯地方で栽培されています。ゆでたキャッサバを「アイ・マナス（生の唐辛子をすり潰し、玉ねぎやトマト、ブルタシという東ティモールの海藻を入れたもの）」という調味料につけて食べます。ゆでたタロイモにもこのアイ・マナスをつけて、朝ごはんやおやつに食べる事が多いそうです。海藻を入れた調味料、どんな味がするのかとても気になりますね。



JDS 3つの特徴

1 行政官限定事業

※一部例外がございます

2 5,712名 21カ国の実績

※事業終了国の人数も含む ※2022年度までの人数

3 大臣・局長級を輩出

対応国の社会・経済開発計画の立案・実施に関わる若手行政官が日本で修士号または博士号を取得しています

出身省庁…財務・経済、法務、行政、環境、インフラ、教育等

<事業実施国> ※受入人数順

ベトナム、ミャンマー、カンボジア、ラオス、バングラデシュ、フィリピン、ウズベキスタン、モンゴル、キルギス、パキスタン、スリランカ、ネパール、ガーナ、ブータン、東ティモール、タジキスタン、ケニア、エルサルバドル、モルディブ

※中国は2012年、インドネシアは2006年に事業終了しました。

日本で専門知識を身に付け帰国した留学生は、日本との政策対話に携わり二国間強化に寄与する等、様々な場面で活躍しています。

人材育成奨学計画（JDS）は無償資金協力によるJICA留学生受入支援事業です。

編集後記

JDS Network News (JNN) をお読みいただき、ありがとうございます。

1999年にJDSがウズベキスタンとラオスで開始されてから20年以上たった2020年頃より、JDS留学生が大臣、大使等の要職に就くようになりました。

事業が始まったころに関係者が描いていた「JDS留学生から大臣や大使が輩出される」という夢のような目標は、今や現実となり、要職にJDS留学生が就任するという喜ばしいニュースを各国で聞くことができます。

JDS事業に関するご質問がございましたら、お気軽にメールで弊センターまでお問合せください。また、本誌へのご意見・ご感想もお待ちしております。

【お問い合わせ先】

一般財団法人日本国際協力センター（JICE）
留学生事業第一部留学生事業課広報担当
E-MAIL: jds.pr@jice.org